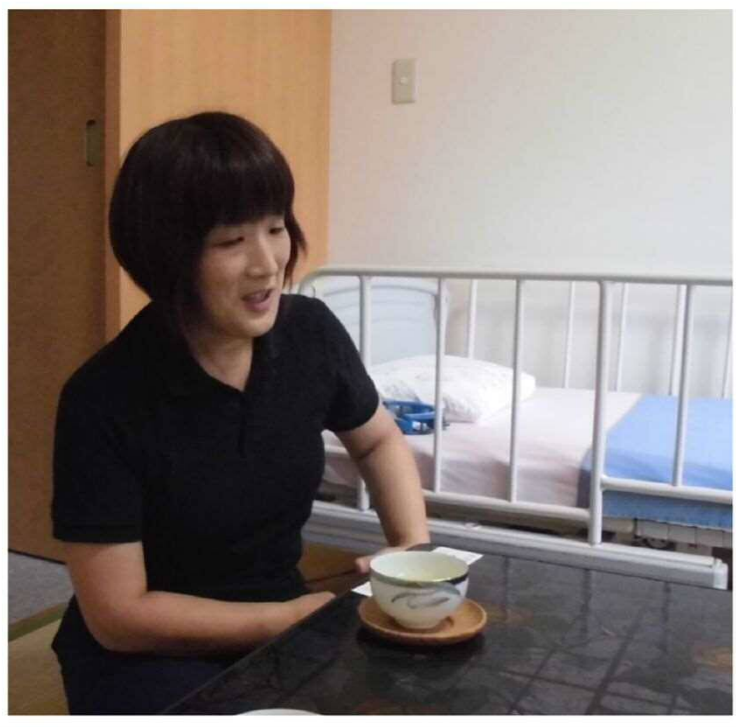


介護職として、何が出来るのか！  
現場で求められるものを模索しながら、  
走り続けた日々でした。



医療法人 明輝会 小規模多機能ホーム ひばり  
管理者 梶 久美(かこい くみ)

<経歴>

- H13 入職
- H14 ろうけん青空
- H18 グループホーム帯迫
- 同年 グループホームひばり
- H19 小規模多機能ホームひばり



○ 災害の現場で介護職として何が求められていると感じましたか？

現地の職員はその現場を回すことで精一杯で、私たちが出来ることとして、利用者さんの気分転換のための体操をしたり、レクレーションくらい…。それと、なかなか散歩に行けていない状況で、職員さんに、了解をもらって、一緒に帰るって感じでしたよ。

でも、やっぱり介護職としての本領を發揮できたのは、『入浴介助』だったと思います！手すりのないお風呂だし、足場も悪い中で安全に入浴を介助し、かつ、リラックスしてもらう技術は介護職にしか出来ないと思えました！

利用者さんからすると、日常生活の一つですし、心休まる時間でもあるので、ほんの少しですが、利用者さんの笑顔が見れた瞬間でした。

○ 現地での支援内容を教えてください。

私の業務は、基本的には、小規模多機能事業所の支援と、避難所での入浴介助でした。

事業所では、食事介助やレクレーションなど、日常的な支援を行いました。

避難所では、お一人の入浴介助をしたのですが、別の担当者は、短い時間の中で多くの方の入浴介助をしなければならなかったのが大変だったと聞いています。また、避難所には、半身麻痺の方もいて、固い床に横になっている状況でした。



○ 業務中もしくはそれ以外で困ったことはありましたか？

一番困ったのが、まず何をしたら良いかわからないということ…。

現地の職員も人にかまう余裕もないので、聞きづらいというか、聞けないという感じでした。だから、自分達で被災者の状況を見て、何をすべきか、何が求められているのかを、その場で判断して動かないといけませんでした。その場での判断力というのがものすごく求められた気がしますし、リーダーシップの取れる人材が必要だなと感じましたね。

○ 今回の災害派遣を経験されて、今後に活かせること、また、皆さんに伝えたいことはありますか？

自分の事業所に戻ってきて、事業所の危険なポイントを職員で再度確認しました。

避難訓練は定期的に実施しているんですが、高い所に積み上げられている荷物とか、災害時に近寄らない方が良い場所など、情報共有することができました！

本当に色々と考えさせられる災害派遣でしたし、鹿児島県でもいつ災害が起きるか分からないので、日頃からイメージをしたり、情報共有することが大事だなと改めて感じました！



※自衛隊設営のお風呂